

平成31年度 AO2期入学試験

基礎学力試験問題 (小論文)

1. 試験時間は、60分間です。
2. 問題は、この冊子の1～3ページにあります。問題用紙が解答用紙を兼ねています。
3. 問題や解答を、声に出して読んではいけません。
4. 印刷の不鮮明、用紙の過不足については、申し出てください。
5. 問題や解答についての質問は、原則として受け付けません。
6. 終了の合図があったら、すぐ筆記具を置いて、解答用紙を机の上に伏せてください。
7. この問題用紙は、持ち帰らないでください。
8. 不正な行為があった場合は、解答をすべて無効とします。
9. 答案の文字は、ていねいに、かつ明瞭正確に書いてください。
10. その他、試験の進行については、監督者の指示に従ってください。

植草学園大学 保健医療学部

受験番号		氏名	
------	--	----	--

文部科学省「特別支援教育^注資料」（平成28年度）によれば、肢体不自由特別支援学校在学者数（国・公・私立計）は、平成19年度は29,917人、平成28年度は31,889人である。肢体不自由特別支援学校数（国・公・私立計）は平成19年度は249校、平成28年度は349校となっている。在学者数、学校数ともこの期間で増加している。

一方、近年、特別支援教育が対象とする障害の重度化・多様化も指摘されており、文部科学省が平成24年に公表した調査によれば、小学校・中学校の通常の学級に在籍する児童生徒のうち、学習面や行動面で著しい困難を示す児童生徒が6.5%いると推定されている。文部科学省中央教育審議会の報告（平成24年）では、「特別支援教育により多様な子どものニーズに的確に応えていくためには、教員だけの対応では限界がある。校長のリーダーシップの下、校内支援体制を確立し、学校全体で対応する必要があることは言うまでもないが、その上で、例えば、（中略）スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、ST（言語聴覚士）、OT（作業療法士）、PT（理学療法士）等の専門家の活用を図ることにより、障害のある子どもへの支援を充実させることが必要である。」とされている。

注）特別支援教育 身体の障害や知的な障害、発達障害など、さまざまな障害のある子どもに対する教育のこと。

問題 次の問いに答えなさい。

問1 上記問題文を読み、以下に答えなさい。

- 1) 平成28年度の肢体不自由特別支援学校在学者数は、平成19年度の在学者数の何倍になっているか、小数第2位を四捨五入して小数第1位まで求めなさい。

約（ ）倍

- 2) 平成28年度の肢体不自由特別支援学校数は、平成19年度の学校数の何倍になっているか、小数第2位を四捨五入して小数第1位まで求めなさい。

約（ ）倍

- 3) 小学校・中学校の通常の学級に在籍する児童生徒のうち、学習面や行動面で著しい困難を示す児童生徒が6.5%いると推定されているが、この数値は1学級40人とすると1学級中におおよそ何人が学習面や行動面で著しい困難を示していることになるか。小数第1位を四捨五入して求めなさい。

おおよそ（ ）人

問2 上記問題文中で、特別支援教育での教員以外の専門家として、例にあげられているものをすべて答えなさい。

()

問3 上記問題文では、特別支援教育で理学療法士等の専門家の活用を図ることにより、どのようにすることが必要であるとしているか、答えなさい。

()

問4 問題文の内容を読み取り、特別支援教育の場で理学療法士がその専門性を生かしてどのような役割を担っていくべきか、あなたの考えを述べなさい。なお、解答は400字以内にまとめなさい。

Handwriting practice row with 15 vertical dashed lines.

100

Handwriting practice row with 15 vertical dashed lines.

200

Handwriting practice row with 15 vertical dashed lines.

300

Handwriting practice row with 15 vertical dashed lines.

400